

# 小田原史談

第45号

発行所 小田原史談会  
小田原市城内3-22  
郷土文化館内

## 二宮尊徳と寺門静軒

岸 遊 志

旧友永井啓夫氏から新著「寺門静軒」(理想社刊)を惠贈された。永井氏は先年「三遊亭門朝」の大著を出し近世文学近世文化の研究者として斯界の注目をあびている学究である。

私は寺門静軒のいかなる人物なるやを知らず、只「江戸繁昌記」の書名のみが僅かに記憶に残るのみであった。ここに初めて静軒は江戸末期の町学者として終始し、野にあった不遇の反骨であって、今日「江戸繁昌記」の書名のみ知られ、その履歴が世に知られることと少なかったのを承知した事である。永井氏が多年苦心してその伝を公けにしたのも又これを惜しむに過ぎないのであらう。

読み進むにつれ、中に「

二宮尊徳との交遊」なる一章がある。郷土の偉人尊徳のかくれたる一面が紹介されているのでここにお伝えすることにしよう。

天保十二年前後、二宮尊徳は下野国桜町の陸屋にあり、仕法の完成につとめて「報徳雛形」等三著の序文執筆者を求めていた。ここに門人菅谷八郎右衛門の推薦により静軒が江戸から桜町に赴き、尊徳と面談、三著の序文を執筆することになったのである、それを縁として二人はしばしば往來、作文の起草を頼まれたり相互訪問し合ったりしている。永井氏は日記やら書翰やらをいくつか引用して親密な交遊を浮彫りにしてあげている。間接的に静軒に米塩の資を援助したりさえ

している。

後に尊徳は自己を起用した大恩人小田原藩主大久保忠貞の霊を慰める為霊牌をつくり最勝寺教院(当時江戸青山。現世田谷太子堂四六八)に納める事を發願した。その銘文を撰じたのが静軒である。完成した小田原侯霊牌は弘化三年、青山教院に納められた。「……質素なうちにも誠意のこめられた法要が執行され尊徳の生涯の中でも最も想い出深い盛事となった」と永井氏は書いている。時移って百年余、現にこの位牌が残っているものなら一見したいものである。読者の中に御存知の方はいらっしゃいませんか?

という。「学者という者は丁度塗盆のようなもので新しいうち水をはじいて吸収しない」といい高弟の富田高慶なども初め三ヶ月も門前払いだだったという。儒学者として又「江戸繁昌記」という享楽的な書の著者としての静軒は我々の常識ではどう考えても尊徳の意に適うとは思われない。この所を永井氏は次の如く記している。「しかし両者は意気投合したらしく、静軒がお咎めを受けたのちの弘化二年にも小田原侯霊牌銘文を依頼している。静軒がこのように尊徳の信任を得たのは、報徳思想について静軒が衷心から感動し、共鳴したからなのであらう。施政に関与する機会に恵まれない、生活のためやむなく戯文を作り、遊蕩に憂さをほらしていた静軒も、その本心には政治への強い理念をもっており、それが尊徳の人格思想に投合したのであるまいか。」

一方尊徳の側からみれば世の中から堅人、道学先生の標本の如く見られている自分と対象的な通人であり憂国の情を感じていたと思われる。尊徳は只固いばかりや

かましばかりの頑固爺でなく人情の機微に通じていた所もあったらうと想像される。我々が修身の教科書で習ったような面のみでどうしてああした社会活動ができたのか? 今迄尊徳のこうした人間的解剖は強いて避けられ、あまりに神聖され偶像崇拜され過ぎて

### 小田原史談会は前むき

史談会は単なる温古知新でなく其実証まで進みたいものです。会員諸賢の皆さん既知未知の得た実蹟を持ち寄り話と話を交換し、之を見学にまで持って行きたいものです。例へば先般來、考へて居りましたのですがあ

の城内小学校前のお嬢が大正時代当時の町議会の決議に依り將に埋められる処を、当時保勝会の吾々が申し合はせ、時の池田知事に直接面会陳情し、町民の与論と実情として疎保存の必要を訴え、遂に残すことを得て現在学び橋まで出来て今日の城跡の優れた景観がある一つの歴史語りを史談誌に詳細したいと思つて居ります。又現在郷土文化会館横手の元高女校跡の現市各地区の寺院神社、又は公民館等に其地区の史談会の方々の輪旋でその方面の史談及実際を見学座談する会を順次に催したいもので

史談会名簿

昭和四十一年度

役名	氏名	住所
名誉会長	鈴木十郎	栢山三三〇
会長	井上英一	栢山三三〇
副会長	清水専吉郎	柴町一・八・九
顧問	中野敬次郎	南町二・二・一五
	峰 堅雅	飯泉鏡音
	菱田長平	鴨宮一四
	難波明	南町四・一・一六
	落合信一	国府津一、六四一
	中井一郎	石橋二四三
	酒井忠治郎	荻窪三三八
	山口武利	早川二六二
	浅見靈風	飯泉一、二二九
	内田武雄	高田一六二
	勝野憲一	南町二・一・一五
	佐々木金治	柴町二・一・一九
	杉崎正五	田島七四八
常任理事		

す。  
小田原に関するもの始めと今の続きの如く、啓蒙学校とか学校の始め、駅逓の郵便局の始め、町政の始め、はや二昔過る市制の始めなどの建物等、現在に繋がるもの制始を語るのも意識深いものです。お互いに発表しあう事を切に希みます。  
(副会長 清水専吉郎)

史談会では八月の行事として、東京博物館構内に新設された法隆寺献納供物の見学会を催す予定。  
同記念館には、四十八体仏をはじめ正倉院でも見るこ

法隆寺献納御物の見学

との出来ない飛鳥奈良朝の伎楽面その他秘宝がびっしり納められている。当日は石田茂作博士に特別解説を依頼する。東導立木望隆。詳細は追って発表する。

理事	監事	員
----	----	---

立木望隆	久野中宿幻庵草舎
東海俊美	南町一・五・三〇
橋本庄平	板橋九四
広沢伊助	本町一・一〇・一七
山崎益太郎	久野坊所
興水正光	柳新田六三
加藤誠夫	南足柄町関本五八四
片山文治	栢山二六四八
額田喜代春	南町二・四・二〇
岩田忠介	南町一・三・四
安部竜藏	寺町一四九
五十嵐登	南町四・二・四六
川口潤一郎	田島九九九
小泉吉之助	飯泉六六六
小林泰助	柴町二・二・六
杉山米吉	浜町四・二二・一五
杉山康輔	浜町一・一・二四
鈴木顯弘	国府津一六二五
福田敬二	南町一・九・二三
山室定雄	池上二九
小沢寛一	栢山八四七
後藤浅義	谷津一七
神保圭介	曾我谷津六二三
小西哲夫	南町三・六・六
岩下良平	南町四・一・五八
林辰弥	柴町三・八・一三
磯崎守久	山王三一五
柏木義満	飯泉七一
川上根五郎	早川四三二
岸達志	久野東泉院
安井常助	浜町三・一・三六
宇野応之	浜町一・四・三
三津木国輝	飯泉三六四
関重広	南町四・四・一九
湯川治郎	谷津七〇

竹内信夫	中島
堀江真夫	柴町一・二〇・二
中津川完次	本町三・六・二一
片岡一郎	南町一・三・四
神戸英治郎	南町二・一・二三
荻原優雄	南町四・五・一六
平野久雄	南町四・四・二〇
曾我操	南町二・一・一七
秋山貞次	南町四・五・三九
高橋喜市	中町二・四・三一
清水善吉	本町二・三・一七
大木吉郎	町田七五
石井美夫	柴町一・二〇・一七
杉山安太郎	南町二・一・五八
鈴木貞夫	南町四・五・三三
日比野正己	柴町二・八・二〇
新居善行	柴町三・二・一九
うしろ藤右衛門	南町一・一三・一七
渡辺白蓉	十字二
尾崎正	本町三・二・二六
小島章見	本町三・一三・五三
柴田茂八	南町三・二・五一
片野正夫	南町三・二・四一
越川金次郎	南町三・二・四九
春日俊雄	十字二・三七一
田丸正夫	南町三・二・四八
近藤広輝	南町四・二・四一
原吉平	南町一・四・四
小林安之助	南町一・四・三三
井上宗	南町三・二・四九
佐藤政治	十字二丁目三六九
井上忠義	十字二丁目三八五
高久弟正	南町一・一三・三二
毛利弥三郎	南町四・五・五
小松岩太郎	本町一・一〇・二九



# 国府津田島から曾我へ

昭和41年6月5日

六月五日、国府津の真薬寺を皮切りに宝金剛寺から田島曾我方へ集る者約百余名、中野氏の東導で一日たのしく勉強した。

## 史跡めぐり讃歌

真薬寺宝金剛寺国府の津  
ひたいあつめて古文書見  
る

岡の上鎌倉道は今いつこ  
建武の板碑山草のなか

道ひらげ田島見下るす高  
山に連なる古墳風外の窟

時うつり山彦山に残りだ  
る松の大木に昔をそ問ふ

松鐺す山彦山の東北に恐  
れ山ともまごふ見晴らし

年を経て六本松は後もな  
くひと木残りて三叉路の  
上

城前寺曾我兄弟をまのあ  
たり思ひやりつゝ忍ぶひ  
と刻

雄山荘みやび住居に曾我  
の里鉄線の花むらさき匂  
ふ

梅の実の野山に目立つ曾  
我の里露の晴れ間を史談  
めぐりす

清水専吉郎作歌

## 会 員

- |         |       |       |           |        |        |        |          |          |          |          |          |           |           |          |      |           |           |       |         |         |         |         |          |          |         |          |          |          |          |         |          |          |       |          |           |          |          |          |
|---------|-------|-------|-----------|--------|--------|--------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|------|-----------|-----------|-------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|-------|----------|-----------|----------|----------|----------|
| 小西尙三郎   | 小泉秀彦  | 平沢金作  | 橋本栄一      | 対木伝八   | 田島健吉   | 高橋太重   | 河本登志     | 齐藤保男     | 高橋清蔵     | うさぎや     | 加藤彰英     | 鈴木ひろし     | 広沢康光      | 鈴木和男     | 石田弘吉 | 兼本貞之助     | 西村隆一      | 小川弥一郎 | 中村 勇    | 勝俣 大    | 鞠川 康英   | 川崎 正治   | 高橋 成直    | 古田福太郎    | 稲葉 清    | 東郷重知     | 柏木保兵     | 里見良一     | 小峰富美子    | 奥津福太郎   | 相沢栄一     | 鈴木幸雄     | 柏木一郎  | 郎山庫雄     |           |          |          |          |
| 南町三・一・五 | 本町宮ノ前 | 本町宮ノ前 | 本町二・一〇・一九 | 南町三・七八 | 新玉丁三三〇 | 新玉丁三三〇 | 南町一・二・一〇 | 本町二・一三・一 | 南町一・三・一二 | 南町一・二〇・二 | 南町一・二〇・二 | 本町二・一四・一六 | 本町一・一〇・二八 | 南町二・一一・一 | 寺町   | 本町一・一〇・二八 | 本町一・一〇・二八 | 御幸方浜  | 南町一・五・五 | 南町一・五・五 | 南町三・一・五 | 南町四・五・七 | 本町三・六・一一 | 本町二・五・一五 | 南町一・四・九 | 南町四・二・三九 | 南町四・二・三七 | 南町二・五・二一 | 南町二・五・二三 | 南町四・二・七 | 南町四・二・三九 | 南町四・二・三九 | 谷津一〇八 | 本町一・六・二〇 | 本町一・一〇・一九 | 南町二・二・五七 | 南町四・二・二二 | 南町二・二・二二 |

會員

草場キヨ	十字	榮町二・一四・二九
高野堅治		榮町二・一・一九
滝本正吉		榮町一・一・二九
鈴木貞嗣		榮町二・三・一〇
小林清吉		平塚市平塚一六三〇
武井馨		南町一・二・九
押田ヒサ		南町一・三・二二
瀬戸寿子		南町一・四・九
古田ハナ		南町二・一・五五
内野栄子		南町三・二・五
杉山キン		本町一・一・三・二二
吉田和喜子		本町一・一・三・二三
安藤きさ		本町四・二・四三
鈴木初枝		本町四・二・四六
五十嵐あき		板橋一五四
市川将貴		板橋六三六
大浜悦郎		板橋八一
石塚荒吉		南板橋一ノ五五
広沢亮徹		板橋八〇
鈴木徳太郎		板橋一五四
木原喜代		板橋七七
松井		板橋七〇三
瀬戸チヨ		南板橋
青木キミ		十字蓮昌寺
小畑文蔵		田島九九九
立花昌徳		六七二
川口潤一郎		六〇一
石井高次		四二二
石井勝三		五七七
野地佐次郎		八三三
高橋義寛		曾比二二五四
山口文雄		
山宮文雄		
二宮文雄		
米山好文		

會員

銀持久治	曾比二二五四
片山清太郎	一六四五
安藤源治	寺下
米山要助	一四一〇
小林万吉	一七九九
奥津豊太郎	東箱山八六二
曾我保夫	飯泉六九二
小野田浅吉	七八五
山崎カズ枝	一〇九七
門松進	一〇四
高田正作	七六五
飯島治助	七七八
門松清治	一一三二
星野アイ	一一〇五
門松忠司	一一五一
岡田市平	六五五
片倉俊男	一四三
峰倉堅雅	六四一
片倉明文	二一五
小野田隆	千代三三四
富田美代子	千代蓮華寺
羽田潮政	千代小学校内
飯田和昇	高田一六二
内田盛雄	中里四〇五
鈴木寿代	国府津 石塚材木店
鈴川利吉	中里三九七
鴨川良介	鴨宮
小林良介	高田
石井豊	
川口匡	
神保慎一	
井上勉	
石塚実	
神保西蔵	国府津
神田太郎	曾我神戸
神保栄	曾我原
	谷津六二三

會員

皆川孝演	曾我神戸
長谷川銀吉	
徳坂重吉	
佐宗兼馨	
宮田兼吉	
小酒部鶴太郎	
林雄山	
山田一郎	久野二四一〇
下田芳太郎	一五七〇
深尾賢	本町三・五・二七
清水伊十郎	三・五・二七
正木三雄	谷津三七八
星野喜久雄	井細田四〇〇
石井富作	荻窪五六四
西村郁郎	南町三・一・一五
沖津徳蔵	桑原
野村勝男	井細田四七〇
岩越元一郎	町田二七一
磯崎カ	多古六三七
松本孝作	米神四五
北村宏	谷津三九九
上垣悠鳥	南町三・五・二七
伊東浩	荻窪九二
石塚千代	国府津一七九一
若杉重	池上五
鈴木久子	井細田四一七
山口買	浜町三・一・二二
山谷保	酒匂二八〇
古井之	江之浦三二七
松井孝	南町二・三・二二
小泉敏子	二・三・二二
沖山彰	栄町二・一・一〇
加藤彰	栄町三・一・三六
若林彰	一・一・一六
株和郎	一・一・一六
中島三郎	一・一・一六
飯沼恒雄	栄町二・九・二〇
鶴井外吉	三・一・一五
森本浩司	箱根町強羅一三〇四

昭和四十一年六月三十日現在  
 (合計二二三名)